

第5回平塚市社会教育委員会議要旨

日 時	令和3年10月26日（火）15時00分～16時35分
会 場	平塚市役所619会議室
出席委員	牧野賢治、吉成伸司、江水是仁、栗原邦夫、丸島隆雄、原田三行、渡邊彩子、北澤浩一、府川文子、大和田マイ子
事務局	鈴木社会教育課長、西山中央公民館長、坂田課長代理、木村主査、市川主事
傍聴者	なし

会議要旨

1. 議長あいさつ

新型コロナウイルス感染状況が急激に落ち着きを見せている状況で、小・中学校では学校行事等が少しずつ再開されてきているようで安心している。今後、第6波が来ないことを願いつつ過ごしていきたい。今日は、今期の社会教育委員会議の報告書をまとめるにあたって、どのような内容とするか等委員の皆さんの思いや御意見をいただきたいと思う。

2. 議事

(1) 神奈川県社会教育委員連絡協議会の事業について

①研修会（動画配信による Web 開催）について

事務局から研修会の動画配信の案内とアンケートの協力依頼について説明した。

②地区研究会について

事務局から1月20日（木）に横須賀市にて開催が予定されている地区研究会の案内をした。

(2) テーマ協議

○議長

次回会議には報告書がある程度形として皆さんにお示しできるように進めていきたい。前期の社会教育委員会議で提言したひらつかスタイルでは3つの柱に分けて、地域、学校関係者がつながっていったらというまとめをした。ところが、コロナ禍となり、暗闇に入った状況。今年の2月に「コロナ禍におけるこれからの社会教育のあり方」について各社会教育委員にアンケートを取った結果、課題や今後の対応策が挙げられた。やり方を変える等、工夫しながら実施できたこともある。イベント等は中止続きではあったが、少しでもこのような活動ができたということは地域の成果である。リモート会議ができるようになり、人と人とのつながりを持つことができた。しかし、

人と人が顔を合わせて何かを作り上げていくことが理想。この状況とうまく付き合っていく必要がある。今まで凝り固まっていた地域のあり方を柔らかくしていけたら良いのではないかな。

どのようなスタイルでのまとめ方が良いか、このようにやっていければ平塚市の社会教育がより良くなっていくだろうといったことについて、皆さんの御意見を聞かせていただきたい。

○委員

ここ最近、急に新型コロナウイルスの感染者数が落ち着いてきている。しかし第6波、第7波が来ることを考えると今回のコロナ禍で経験した心構えを入れても良いのでは。各地で様々なコロナ禍での工夫した取組が行われているが、それは何のためにやっているのかを再認識し、社会教育委員の中で共有したことを示していけると良いと思う。コロナ禍でリモート会議が浸透したり、家族との時間が増えて絆が深まったりと良いこともあるが、一方で地域イベント等の自粛でそれ以外の方との交流する機会が減ってしまっているのだから、家族以外の方々との繋がり大切さを入れることも良いのではないかな。今後5年、10年後に振り返ってみてコロナ禍での教訓を残していけたらと思う。

○委員

急激に感染状況が良くなり、緊急事態宣言などで規制されていたものが無くなってきている。良いことではあるが、一気に規制を緩めて全てを元に戻すのではなく、今後第6波が来ても対応できるように、例えば会議などでは対面とリモートのハイブリッドの形で実施するなどしていくのが良いのではないかな。単純にコロナ前に戻すのではなく、行事や会議など本当に必要なものか再検討していくことが大切なのでは。新たな方策を模索していく柔軟さが必要であると思う。

○議長

コロナ禍を経験して、コロナの感染状況などに応じて柔軟に対応してきたことがいい経験になっていると思う。

○委員

コロナの感染状況が落ち着いたこともあり、先日、地域の各種団体のリーダーを公民館に集めて、今後どのようにしたら安全に安心して事業が実施できるのか等、話し合いの機会を持った。リーダー各々はどうしたら良いのか悩んでいるので、皆で集まって意見を出し合い、知恵を絞ることは大切だと思う。また、最近ふれあいサロンを再開したが、希望者が多く、定員オーバーの状況になっている。一気に制限を

緩めるのではなく、感染症対策を取りつつ、徐々にイベントを再開していく方向で各種団体のリーダーの皆が賛同している状況だった。

○委員

地域の各団体の長が集まり、意見交換をすることは、様々な知恵が出て、素晴らしい取り組みだと思う。

○委員

崇善地区では、3か月に1回程度、定期的にこのような集まりを行っている。

○委員

小さい輪でもいいので、意見が言い合える場が大切だと思う。気軽に意見を言える環境だと、住みやすい地域になることに繋がっていくと思う。

○委員

社会教育は基本的にいつでもどこでも誰でも学びたいと思ったら学ぶことができるものであったが、コロナ禍になり、できにくい状況になっている。集まれる人、集まろうと考える人はいいと思うが、集まらない方がいいと考える人が取り残されてしまわないかと感じた。コロナ禍では、ワクチン差別というのが問題として出てきた。ワクチン接種をしなければ参加できないなどの状況になった場合、ますます好きな人は好きな人同士で集まったりして、これをきっかけに社会的な断絶を生むのではと感じた。

例えば、行政が科学的なエビデンスに基づいて3密での指針などを出し、誰もが安心して活動できるように公的に担保していくといいのではないか。

また、平塚の学芸員が自分の館だけではなく、地域の公民館等で講師をして知的な資源を地域に還元することがあってもいいのでは。

それともう一つ、図書館や博物館の収蔵資料を図書館や博物館に行かなくても、地域の公民館で検索でき、閲覧できるようなシステムがあるとコロナを契機とした遺産となるのではないかと思う。このようなシステムができると児童・生徒が授業で受けた学びをより深い学びにしていくことに貢献できると思う。

○副議長

公民館では、匠の店を見学する講座だったり、地域の有形文化財を巡る講座など地域資源を取り上げた講座を各地で実施している。

また、前期の社会教育委員会議の報告書にある「ゆるやかなネットワーク」で地域の各種団体が繋がることの大切さが載っているが、これらの各種団体をまとめるリー

ダーの負担はこれから大きくなるかもしれない。しかし、具体的な活動は各種団体の構成員が支えていくのが理想だと思っている。

あと、学校行事は学校だけのものとして捉えられているが、「地域の行事」として意識を持つことが大切なのではと考えている。この意識を持つことで地域の人が学校行事に関わることに繋がるのではないか。

○委員

ちいき情報局に子どもに関する情報を掲載したいと考えている。学校で運動会中止のお知らせをちいき情報局を使い、情報発信してもいいのではないかと思う。先生が難しいのであれば、PTAが学校に確認して、情報発信することもできる。

○副議長

私は公民館で歴史の話をする機会があるが、逆に地域の方から私の知らない新しい情報を教えてもらうことがある。このような知の循環がコロナ禍で停滞してしまった。このような繋がりを分断しないように何とかしないといけないと感じる。行政は慎重で一律に中止等の制限を掛けることが見られるが、安易に一律で制限を掛けるのではなく、もう少し工夫してもらいたいと思う。

○委員

私の地区の中学校の文化祭では、昨年度は3年生保護者の入場を許可されたが、今年度はコロナの状況が落ち着いてきているのに全学年とも保護者の入場ができなかった。感染状況に応じて、臨機応変に対応してもらいたいと感じた。

○委員

コロナ禍で教育現場は大きく変わってきている。出席日数の取扱いが変わり、高校の入試に使わなくなったり、ICT環境も2～3年かけて段階的に導入予定だったが、1年間で一気に導入することになった。

コロナ禍を契機に本当に必要なことを精選すべきとの話があったが、何を心構えとして持っているのかが重要なのではないか。弱い立場の人が蔑ろにされることがないだろうかとか、本当に子どもたちに必要なものは何なのか等、大事なものを見極めて、新しいことを進めていかないといけないと感じる。

○副議長

他市の事例だが、高齢者のワクチン接種の予約を中学生がお手伝いしている取組など、小さいことも素晴らしい事例はもっとちいき情報局等を利用して情報発信していくことが大切ではないか。

○委員

情報発信はイベントばかりの情報になりがちだが、そういった情報だけでなくどんなに小さいことでも素晴らしい情報はちいき情報局でも発信していくべきだと思う。

○委員

良いことは情報発信したいと考えているが、子どもの顔や名前の掲載については難しいということを経験した。

○委員

写真掲載については、顔を写すのではなく、手元や足元など個人を特定しないような工夫をすれば、良い情報はアップしていけばいいと思う。

○委員

今回、報告書としてまとめた時に実践しやすい提言になると良いのではないか。

○委員

行政が抱えている課題に対してこれから作る提案書はどうコミットしていくのか、政策への実現可能性を行政としてどの位提示できるのか。このような情報があると提案書をまとめやすくなるのではないか。

○事務局

提案書は教育委員に対しても年1回懇談会で報告させていただいている。コロナ禍で様々な団体が工夫をしながら活動をしている等、コロナの対応は正解がない。今回の報告書は決まった政策を示すというよりも、これからも状況の変化に応じてこう対応していきましょうといった内容になるのかと思う。また、コロナの対応において、市は国や県の対処方針等に基づいて市の方針を決めているので、市が科学的なエビデンスに基づき指針を示すことは限界があると感じる。

○議長

今すぐに実現できるかは分からないが、市に提言することは意義のあることだと思う。

以前、地域教育力ネットワーク協議会（以下「教育力ネット」）の研修会で、平塚らしい地域学校協働活動として公民館や教育力ネットと学校が核となってやっていく提案について話をしたことがあり、各ネットの代表者はその時の話を理解され、地域に戻られたと思う。しかし、教育力ネットが核となって地域学校協働活動を実施できる

かは地域差があるようだ。これからゆるやかに進めていければと思っていたが、コロナ禍となり、地域活動が止まってしまったのが、残念である。

○事務局

平塚でもコミュニティ・スクールの導入に向けて準備が進められているので、今後学校と地域の連携が重要になってくると思う。

○議長

現状の平塚市のコミュニティ・スクールはどの位進んでいるのか。

○副議長

昨日、学校評議員の会議があったが、いくつかの学校で来年度パイロット校として動き出すようだ。

○委員

コロナ禍での対応などを未来のためにしっかり記録を残していく必要性は報告書に入れてもらえるといいと思う。

○委員

文化芸術ホールが新しくなり、令和4年3月にオープンが予定されている。市民部の担当課にも提案しているが、子どもたちが使えるよう学校関係を優先して利用させてはどうか。

○事務局

ご提案は所管する市民部に情報提供したい。

○議長

本日の協議はここまでとします。御意見ありがとうございました。この後ワーキンググループの打ち合わせをしたいと思うので、御協力いただける委員は残ってください。

(3) 今後の会議予定の確認

第6回会議日程…令和4年1月25日(火) 15時～ 場所は619会議室

3. その他

・美術館の企画展の情報は年間何回かいただいているが、図書館や博物館の企画展やた

より等の情報も提供いただきたい。

以 上